



張在在
三上

~ 13
3985
3



所人は
三丁目
三葉大郎



繪本金花談卷之三

目錄

友衛固津川ともゑのこづがわにて難なは遠とほより上うへ事こと

浮世うきよ波なみ平ひら八町やちま塘たうふ友衛ともゑの還かへり待まち伏ふり圖ずみ

其二

其三

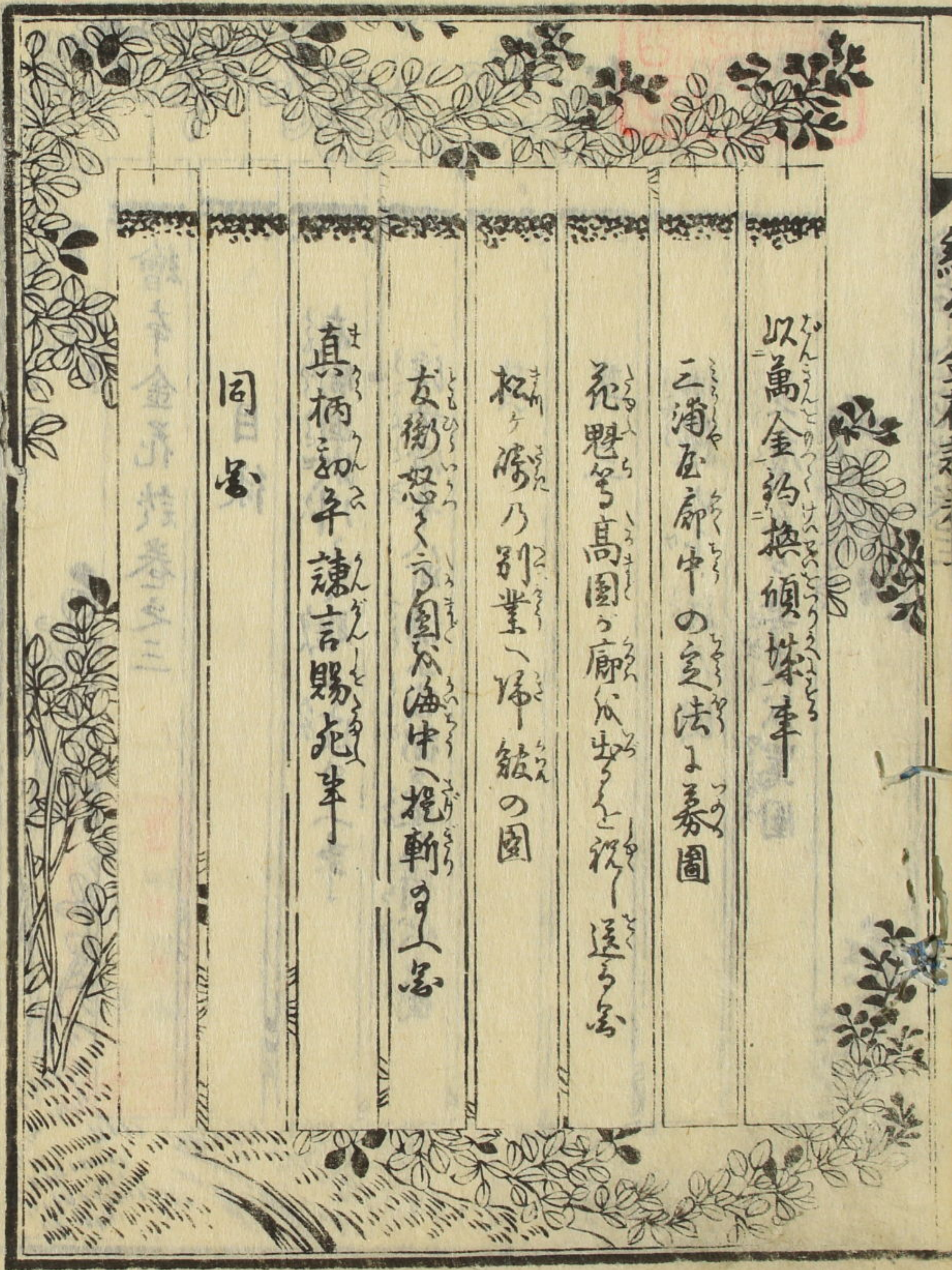
伽羅がらの下した結むすり圖ずみ

豆まめ齋いひ屋やが妻つま夫むすの罵ののしり圖ずみ

繪本金花談卷之三

昭和41年12月20日
原安三郎贈

門へ13
號3985
卷 3



以萬金約換傾城車

三浦五郎中の定法よ壽圖

花魁等高圓の廓瓜を花に送り送らる

松ヶ崎乃別業一掃紋の圖

友衛怒りう園の海中に抱斬り入る

真柄初平諫言賜死車

同日也

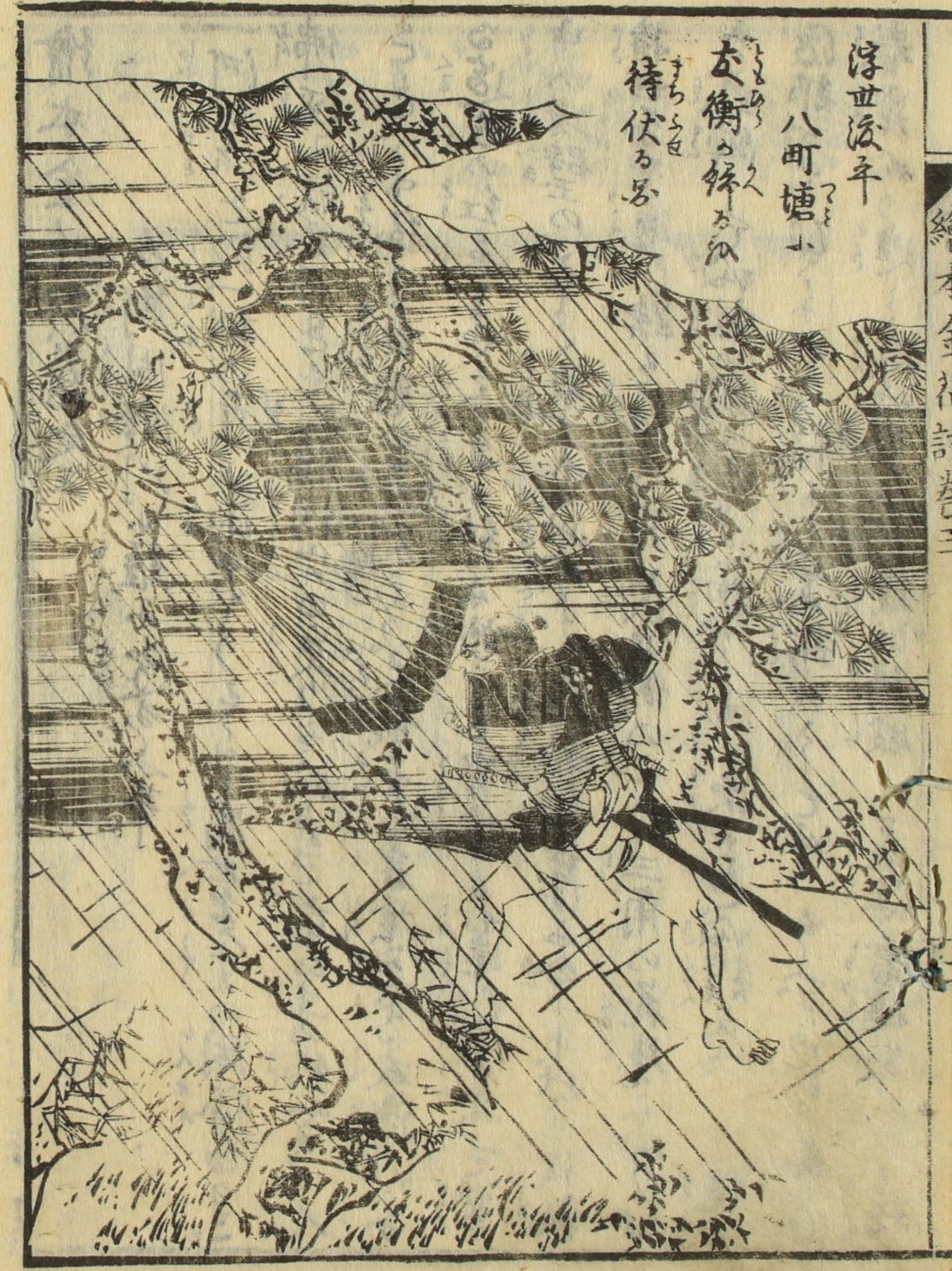
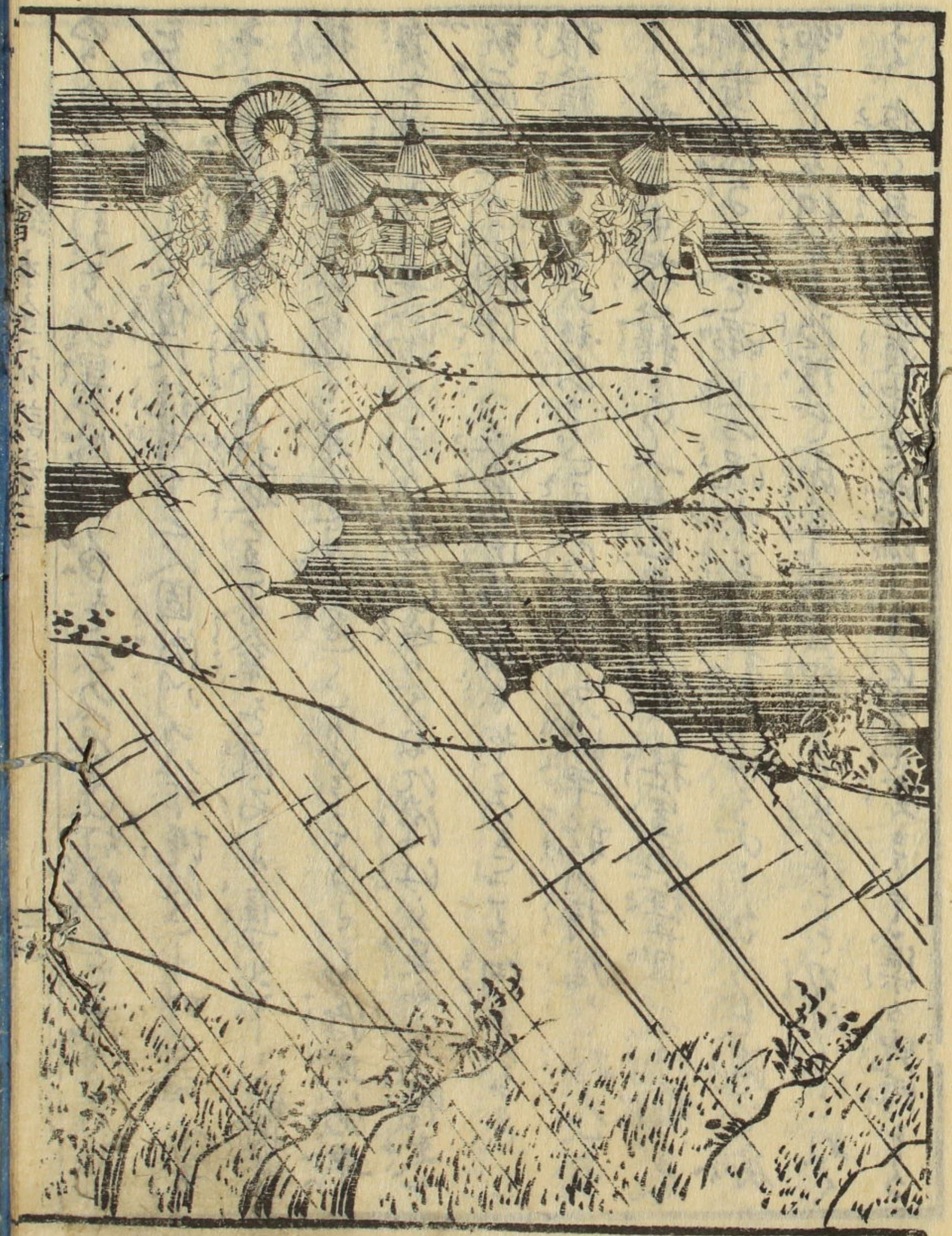
繪本金花談卷之三

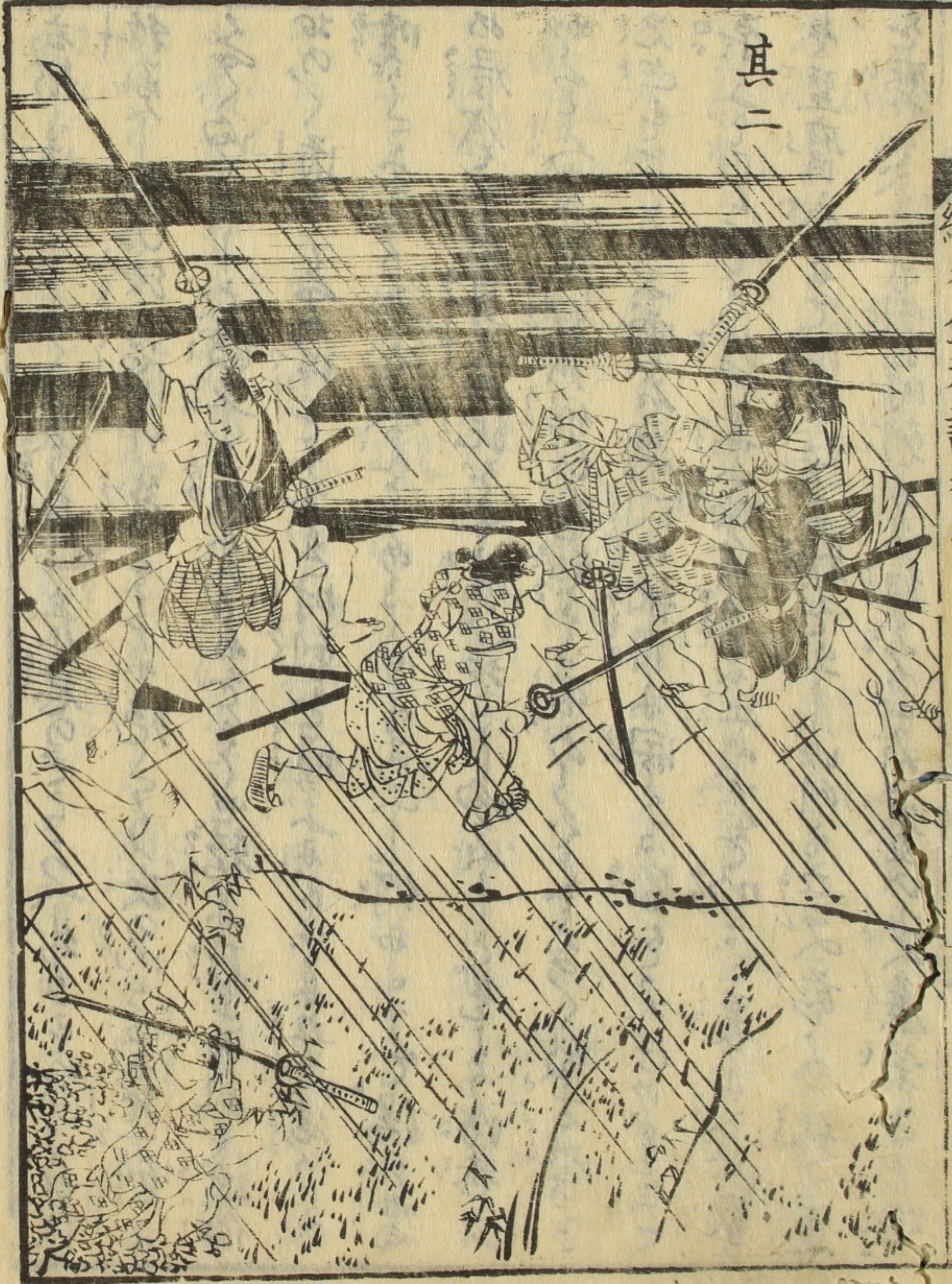
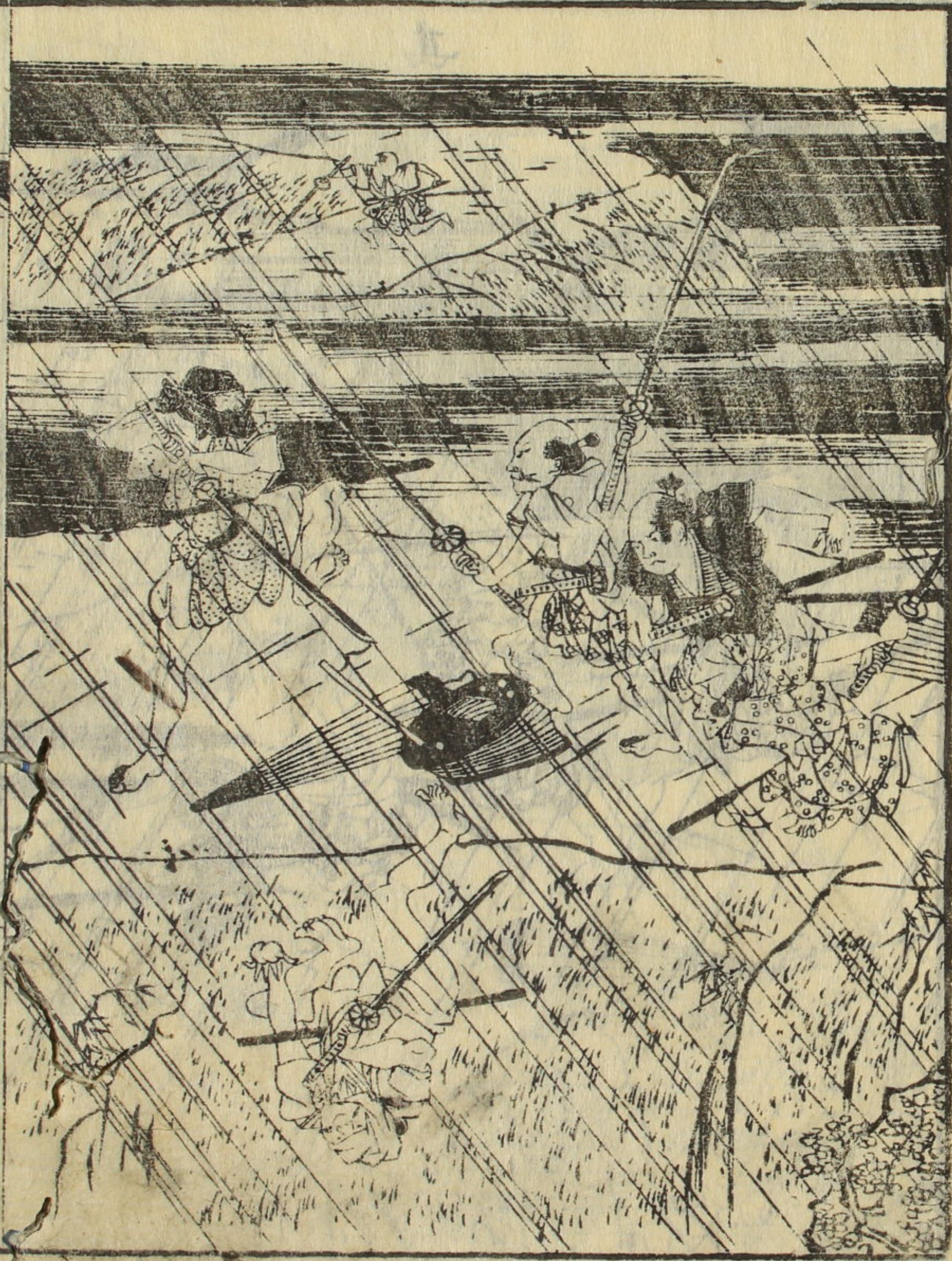
繪本金花談卷之三

友衛固瀬川小雛小遊あふ事

一河の流を汲一樹の蔭小雨中やうもも病世多生の周縁ありこ
佛徑小旅見つとと人輪同穴の交りもぬきさ前生の物やまらん
ささとも依小台悪の差別あり大衆をよ兼陰冥の友衛いふ
る過去の紅糸よやるあが熱小妙なり容姿小を迷ひ成るて掌
中の珠辟玉のやとて破ぐんと此向より後形新舊小命ト此の執
持せあや通ひ路を絶せ三月廿六日例のどく三角の花境小あむ
きと乳醉して破綻の期を忘る物小もと交もき破綻あむ
後部がとくじり小より車をくらあ館代とて住りあふその夜を敵こ
春霖ゆの進く近侍もく袴の掲股も蓋海濱遊女人も袴

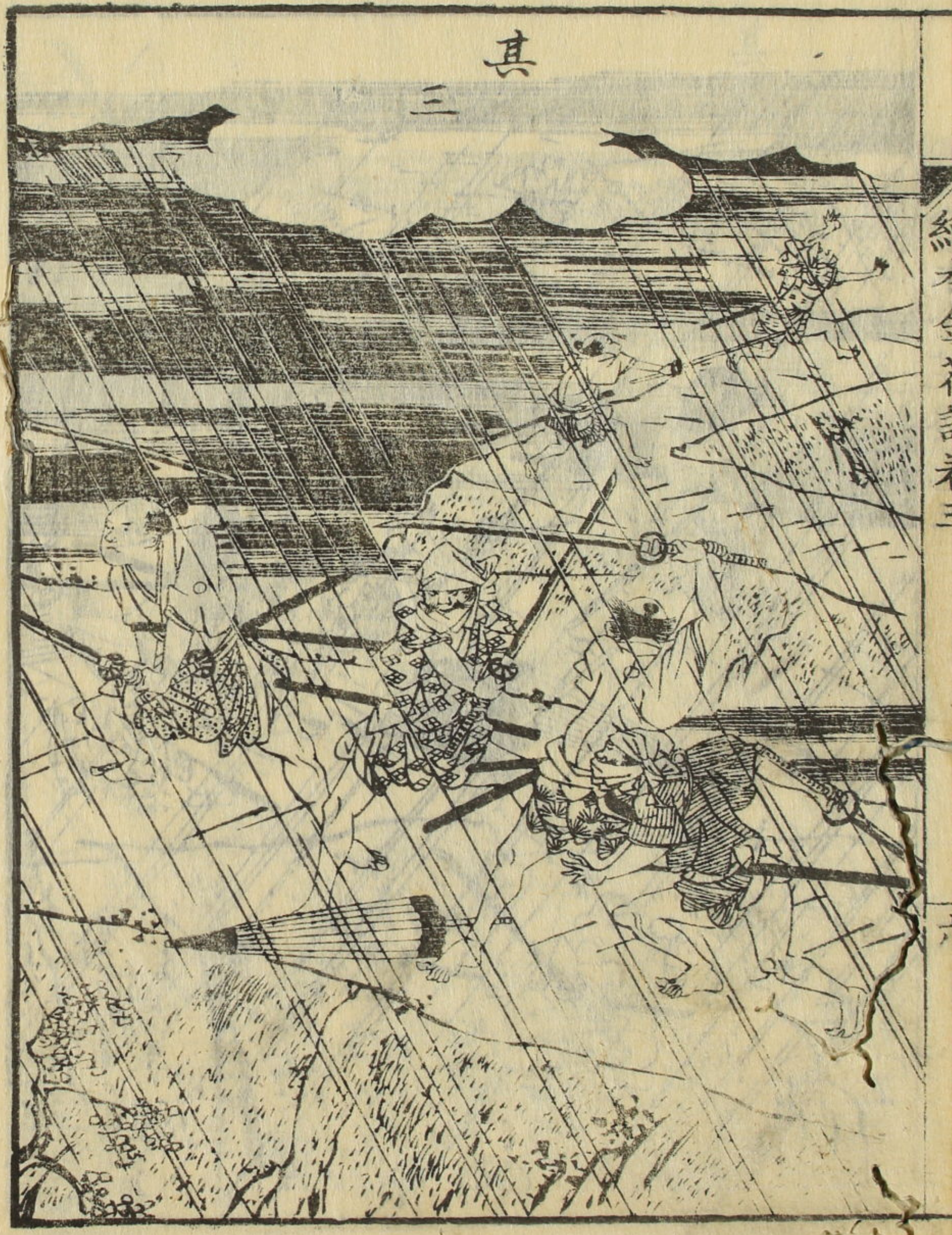








金田一右衛門



三 其

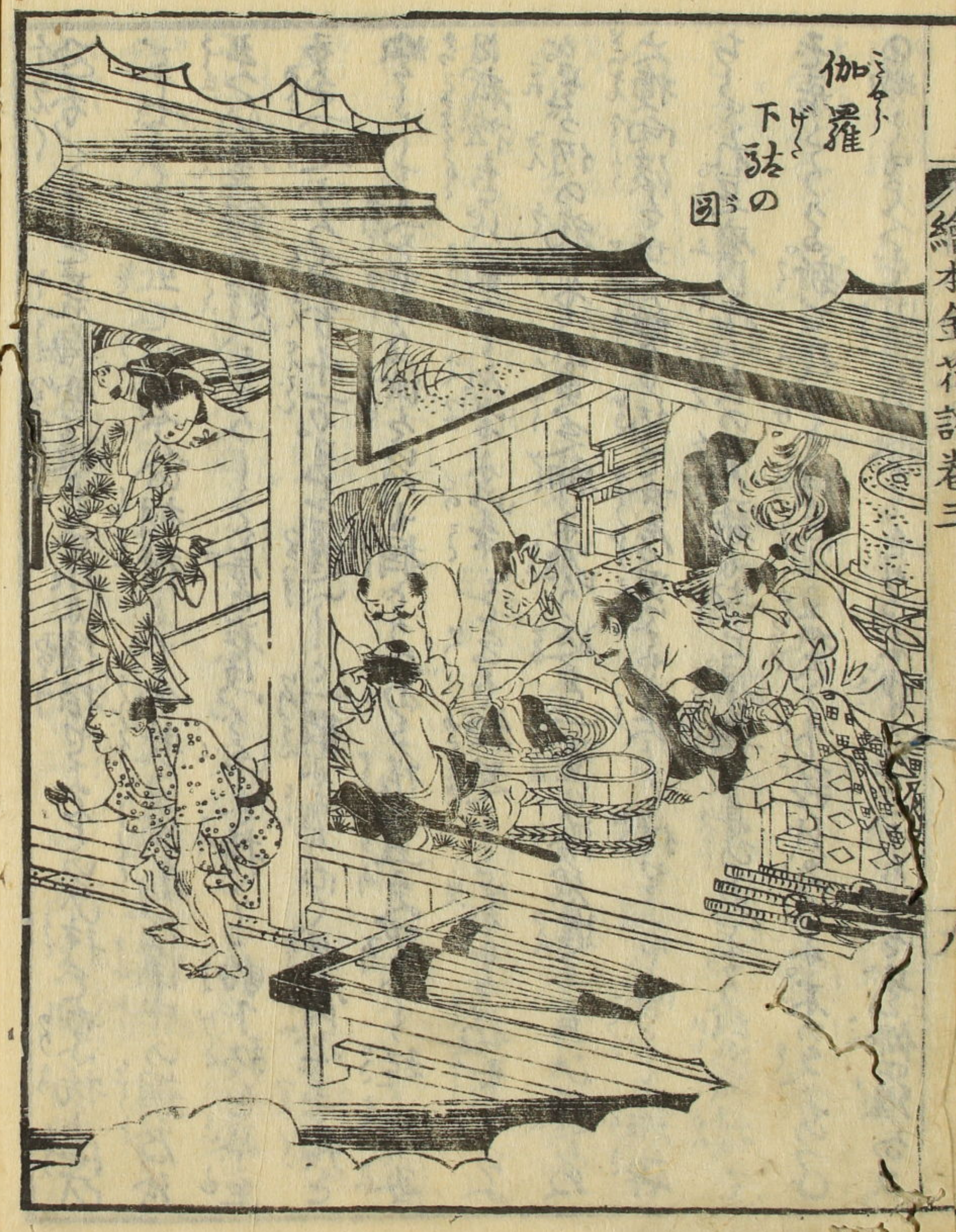
金田一右衛門

湯氏沸一そく夏氏控く居ところも夏氏有度陪堂と迎ぐ人
 兼惣をぐつやうとら湯の本堂とて一とつひも亭主おら
 き孝法もををててくもき毒物を下し迎候もとりとおめ死
 人十二三人身上泥塗と成ともあり或は血も濁とるもあり
 何と尋常の人物も人々どとと緒度ぐこ花境がよひの境
 都下の軍賊も出會てて致法をてらる湯をよつてと
 音通致賜とて往昔のいまも金銀もる目も腫もき人情女
 房の未起もわづむ小兒も流乳を居もる人ひ醒一六釜の中
 珠のまゝも湯氏血も汲とるが友物をいじめを従事か
 稼も成勝ひおとこせむも後新勝勝輪ま下知してて小
 東方向をちりし納成夜と毒物成接よとせ亭主及くの世活

心ざくそと荒海雷樞下き根も接接せとつひ控て毒物成度ひ
 とぞとて出でゆゑ人の相撲とり今晚の強勤に懐中の調度成
 むつひ金銀の貯へるうらむと雲在度が手も持も物下終を亭主
 母手迎ぐらとち千万を遣へと一散もをりゆ豆腐を妻頬を
 ぬぐしてまを四つは女々も相づりのあり物も五文四文う起り毎
 日我控も成勤とそん常も必事とをを致起とら家の中福取とり
 公是が何の物も本貞之神子跳り返と一釜の湯成遣と再び還らぬ
 大損向後々世同難も起て女房見もか快く休ややと嘔くと詭辞
 ちとこれ豆腐を一との毒物を下し早朝一身のあやまり既成接で
 を居とらる新てれめ後亭主と下終成とるも本をたよめつ
 の物とも人々迎候の人ももるもや中の人をたよめつ例羅あり



繪本金瓶梅詞話卷三



伽羅
下げ
の
団

繪本金瓶梅詞話卷三



御 旨
大 殿
三 十 日



如も上品の本行て贖めし時々幾許の金も請降家しりてキと
御羅を改本履とてふあまの人のとぶきあわらむと物と世や
世上一統の風使母度因守友徳の花使子通ひあふうきくが必
定此人なりとて都會一面の風税とて承りけり。

以万金釣換傾城事

斯て友徳後平が路口の狼籍ありて後自茲この日後とも捨置
往來しあふとていふありて変察んあさうらうとてふる身を價典金
をそと手松が崎の別業みさへ並べと綾川後部が村ひまうたね
して金子の成調達し新屋場が三浦屋へ申し是れけりゆと
交りなむとて三浦屋中らうと松らとてふる身の買とて金子
釣換あて下さるるなりとていふは新屋場とてふる身に任せん一月も

